

第7回

川でつながる発表会

開催報告

川でつながる発表会



- 平成23年2月13日(日)
- 荒川知水資料館 amoa

新河岸川流域川づくり連絡会
新河岸川流域総合治水対策協議会



開催概要

趣旨

本発表会は、流域内の小学生から大学生が行った、川や水、環境を対象にした様々な学習・研究、ボランティア等の活動の成果を発表し、意見を交換することで、学生たちが感じたり、考えたりしたことを知り、世代を超えた交流が生まれるきっかけをつくる場とすることを目的に開催されました。

開催日：平成 23 年 2 月 13 日 (日) 10 : 30 ~ 14 : 30

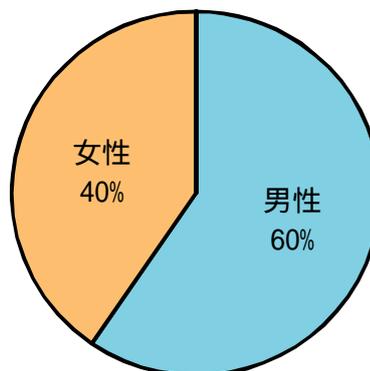
開催場所：荒川知水資料館 amoa アモアホール (発表会本会場)
 荒川知水資料館 amoa 2階 (交流会会場)
 巡視船「AYASE」(現地見学会)

主催：新河岸川流域川づくり連絡会
 新河岸川総合治水対策協議会

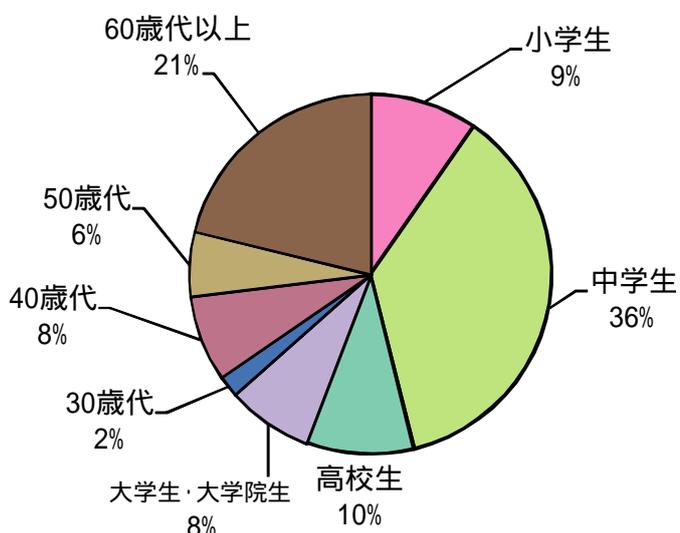
参加人数：75 名 (事務局除く) パネル展のみ 6 名

参加者構成比：

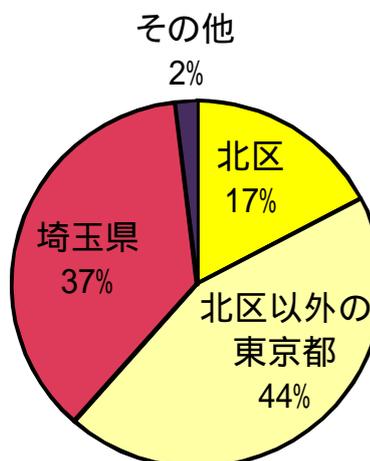
男女



年齢



住所





当日プログラム

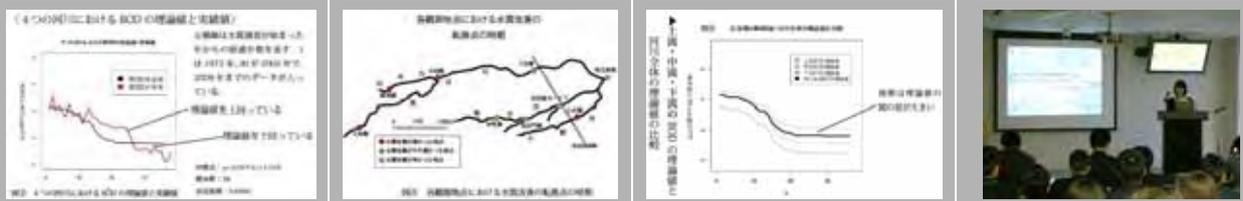
時間	内容	当日の様子						
10:00	受付							
10:30	開会							
10:30	挨拶	 <p>開会に先立ち、荒川下流河川事務所長より「皆さんが学習や活動をされている新河岸川流域の最下流にあるこの治水資料館で発表会を開くことができた。川や水に関わる活動が活発化してきている中で、お互いの情報を交流し合い、川を通してつながりを深めて頂きたい」という挨拶がありました。</p>						
10:35	発表会（同時進行見学会）	<table border="1"> <tr> <td>発表（前半）</td> <td rowspan="4">  </td> <td rowspan="4">  </td> </tr> <tr> <td>コメント質問</td> </tr> <tr> <td>休憩</td> </tr> <tr> <td>発表（後半）</td> </tr> </table> <p>小学生から大学生までの学生が、流域内での川や自然に関する日頃の学習・研究の成果を発表しました。毎年継続して積み重ねている観察や、新しい切り口の研究など、様々な発表に、来場者は熱心に耳を傾けていました。また、北区史を考える会からは、荒川河川敷の昔の様子を語る発表があり、参加者の興味を引いていました。</p> <p>発表校を対象に、荒川と新河岸川を巡視船で巡る見学会が行われました。普段と違う視点からの川を、参加者は、興味深そうに観察していました。</p>	発表（前半）			コメント質問	休憩	発表（後半）
発表（前半）								
コメント質問								
休憩								
発表（後半）								
13:00	交流休憩時間（パネル展・(amoa 館内見学)）	<p>館の方の説明を聞きながら、amoaの展示を見学しました。また2階の展示パネルや発表内容から答えを探す「新河岸川流域クイズラリー」が行われました。</p>  						
14:10	表彰状授与	 <p>荒川下流河川事務所長より、各発表校の代表者へ表彰状が授与されました。発表を終えた安堵の表情とともに、会の締めくくりとあって、少々緊張気味の顔もありました。</p>						
14:20	講評	<p>新河岸川水系水環境連絡会代表の菅谷さんから、「7回目を迎えて、年々中身が濃くなっている。川だけでなくいろいろな場所での取り組みを聞くことが役に立って行くのではないか。『今後に期待』という意見が多かったように、第8回がもっと発展するように期待する。」という講評がありました。</p> 						
14:30	閉会							
14:30	記念撮影	 <p>恒例の記念撮影は、学校や世代を越えてつながる一体感を感じさせる一コマでした。</p>						



発表校紹介

自由学園最高学部

東久留米市河川水質調査結果のまとめ
- 38年間で川はこんなにきれいになった -



自由学園最高学部からは、東久留米市が行った 38 年間の水質調査データを用い、東久留米市内の 4 河川の水質改善とその特徴に関する分析研究の発表がありました。まず、近年に近づくにつれ水質改善がみられる主な要因は、下水道の普及にあると考え、その相関関係を分析しましたが、それだけでは水質改善の要因を説明できないことがわかりました。さらに、BODやDOなどの数値の変化は、観測地点によって、異なる推移傾向があることがわかったため、上流域・中流域・下流域の 3 グループに分けて分析を行うことにしました。すると、中・下流域では下水道の普及が水質改善に強く影響しているのに対し、上流域ではそうではないということがわかりました。これらの分析結果から、水質改善を決定する要因は下水道の普及の他に、湧水量の差や、都市化の進展による地下水の利用量や農地から流出する排水の質の変化なども含めて考える必要があるということが数値的に裏付けられました。今後は、湧水量や宅地化率の変遷などのデータを含め分析を進めていきたいとの展開についても報告いただきました。

早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(WAVOC)公認
早稲田大学所沢キャンパス湿地保全プロジェクト

「湿地」のためにできること



早稲田大学湿地保全活動は、狭山丘陵で最も面積が大きく生物多様性が豊かな所沢キャンパスの湿地の乾燥化を防ぎ保全する目的で 2003 年から開始された活動です。学生が中心となり、大学の組織である自然環境調査室の指導と協力を得て学生と市民の協働による保全作業や調査、散策などを夏休みを除く毎月 1 回行っているとのこと。毎月の活動では、作業や調査の目的や方法について 40 分ほどの講義を受けてから湿地や雑木林に出て下刈りや落ち葉かき、ヨシ刈り、外来種除去作業、オオムラサキ越冬幼虫調査などが行われています。また、作業の成果を確認するため年 2～3 回の散策も行われています。今回の発表ではそれらの様子をスライドで紹介いただきました。また、8 年間の湿地保全活動や 14 枚の復田により、ミズニラやウスゲチョウジタデ、キクモ、ホタル、トンボ、メダカなどの希少種が戻ったことが明らかになっているとのこと。「降った雨の約 90%は、雑木林に地下水として蓄えられ、徐々に湧水として湿地を潤します(涵養)。林は緑のダムです。ですから、林と湿地を保全することが重要です。所沢キャンパスから流れ出す砂川堀は、約 18km で新河岸川に注ぎます。そして、新河岸川は荒川と合流します。源流部の湿地保全活動は、新河岸川や荒川の浄化や生物多様性にも寄与しているかもしれません。」という湿地保全の重要性についても発表いただきました。



北区史を考える会

荒川の河川敷に生きて



北区を中心とする地域史の研究・発表・調査を通じた地域活動・交流の推進を目的として活動している「北区史を考える会」から、子供の頃の荒川の様子や、江戸時代の新河岸川の舟運などについての発表がありました。北区内にある母校（小学校）の旧校歌を紹介しながら、浮間にある桜草畑のことや、地域の人たちがお金を集めて赤羽の工兵隊に橋を作ってもらったエピソードなど、校歌に織り込まれたこの地域の当時の様子についてのお話もありました。江戸時代の新河岸川の舟運のお話では、当時九十九曲と呼ばれるくらい曲がっていた新河岸川を、最大で4日もかけて物資や人が運ばれたこと、「のっけ」という舟をひっぱる専門の人足がいて、舟が着くと人が舟をひっぱったこと、大量に発生した人糞は廃棄物とせず優良な肥料として、川を使い近在の農家へ売られ、農家はこの下肥を買い取り、作物を生産する「循環型（リサイクル）社会」であったことなどについてもお話がありました。また青水門ができる前と現在の航空写真を使って、水門の位置関係や、新しい水門がどう作られたかという説明もありました。この水門工事や荒川放水路の難工事を指揮した青山士氏についてのお話もあり、会場である amoa の入口にある工事完成の記念碑をぜひ見て行って欲しいとのことでした。

NPO 法人エコシティ志木 天田さんによるコメント・質問

発表後にコメンテータから各発表者へ、以下のようなコメントと質問がなされ、発表者からその回答がありました。

自由学園最高学部への質問：水質調査などのデータはどこが作成したものか？

回答：東久留米市が調査作成したデータを使用している。

自由学園最高学部へコメント：自分たちも水質調査などは行いますが、なかなか専門的な分析まではできていない。大変参考になった。柳瀬川に非常に大きな下水処理場があり、落合川や黒目川流域の下水も含めて処理され柳瀬川に流されているので、下流では水質がなかなか上がらない。汚れの移動のようなものも研究してみたい。

早稲田大学への質問：市民の参加者は、どのあたりから来られているのか。リピーターが多いのかどうか。

回答：参加者は、キャンパス付近の方が多いが、所沢市全体から参加いただいている。活動を開始した当初からリピーターとして来られている方がほとんどである。

早稲田大学へコメント：学生さんの中には地方からこられている人などがいると思うが、ぜひ自分の地元の自然などにも目を向けてもらえたらと思う。

北区史を考える会への質問：住んでいたのは荒川の河川敷の堤内か堤外か。

回答：荒川の堤内に住んでいて、河川敷で遊んでいた。

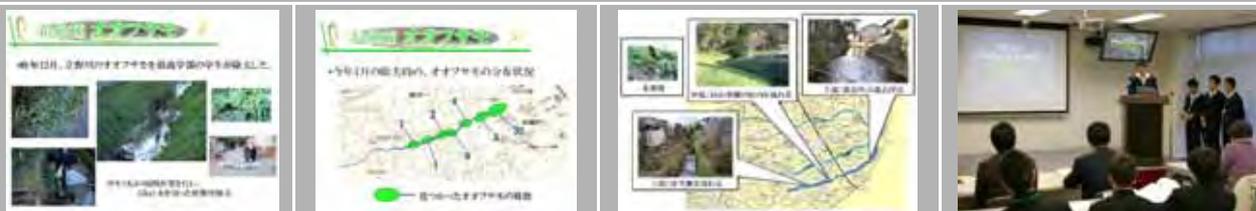
北区史を考える会へのコメント：志木などでは大正時代ごろまでは荒川の堤外に集落があったりした。今日来られているみなさんの住んでいるところでも、埋もれている昔の話などがあると思うので、ぜひそういう話を発掘して記録を残して頂きたい。





自由学園男子部高等科

立野川で特定外来生物を確認



自由学園男子部高等科からは、校内を流れている立野川での活動の様子と、その立野川で特定外来生物の調査・駆除を行ったことについての発表がありました。立野川の流速・水位・水温などの計測や見回り、ごみ取り、川岸の草刈りなど、日常的に行っている活動に加えて、全国一斉河川調査への参加、川塾での水生生物の調査など、盛んな活動が行われている中で、昨年10月、学校の中で、特定外来生物であるオオフサモが見つかったそうです。オオフサモはアマゾン川原産で、繁殖力が強く生物多様性を脅かすおそれがある侵略的外来種として特定外来種に指定され、栽培や移動などが禁止されました。12月には学部生が42kgのオオフサモを除去しましたが、1月の調査で再び見つかったそうです。今後すべきこととして、流域のオオフサモを完全に除去すること、定期的に見回り、根や茎を残さないこと、切れ藻を流さないこと、法律にのっとった方法で処分する、などがあげられました。また、これから立野川の水生生物調査、流域のごみの問題と雨水管などからの汚水流入の問題について取り組みたいということも述べられました。

北区立浮間小学校

夢つむぐ うきま 里山

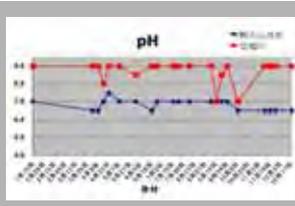


長い間かけて造られたうきま里山と呼ばれる自然豊かな環境を受け継ぎ、学校・地域が一体になって維持・発展させていく取り組みが浮間小学校から発表されました。30年ほど前に校地の中に造られた、うさ山という山や、さくら草の庭園、学年園やうきうき池といった自然豊かな環境も、かえりみられなくなった時期がありました。そこで何とかしなければとの思いと、先輩たちが託した夢を紡いでいくために、うきま里山として整備していくことにしたそうです。整備は平成20年度から全校を挙げて取り組まれ、取り組みにあたっては、「子供たちが中心になって活動する」、「保護者、地域、専門家の方々の力を借りる」、「自分に自信を持ち、自分と学校が好きになる」という3つを目標に掲げました。最初の年はうきうき池の大改修、次の年は堅穴住居造り、今年度は棚田造りに取り組んだそうです。泥を運んだり、土をこねて作ったレンガ状の固まりを池の底や壁に貼りついたり、バケツリレーで田んぼに土を入れたりと楽しかったこと、貴重な体験となったことなど詳しい活動の様子が述べられました。来年度は棚田から池まで小川を造る予定で、これからも、うきま里山造りに夢を紡いでいきたいとのことでした。



明法中学・高等学校 科学部

野火止用水の水を追って



7年前から全国一斉水質調査に参加し、発表会への参加は今回で6回目となる明法中学・高等学校科学部からは、プラネタリウム、ソーラーバイクなどの環境を考えたものづくりと、毎週行っている水質調査などの川の活動、またあらかわ号に乗って東京湾まで川を下ったことなどの発表がありました。科学部では野火止用水と空堀川の二つの川のCOD、NH₄-N、NO₂-N、PHの値をパックテストで毎週調査していて、今後も測定を続け、データを蓄積していくそうです。また数年前から、野火止用水の水の流れを追いかけ、学校から東京湾へ向けて川沿いを下って行く報告を毎年継続して行っていた同校ですが、今年の発表ではとうとう東京湾に至りました。今回は水質調査などをしながら船の中から荒川の景色を観察、赤門・青門から船の標識、東京スカイツリー、屋形船などが見え、荒川ロックゲートでは実際に水位変更を体験してみたそうで、動作のスピードや高さにとても驚いたそうです。水質調査は3地点で行い、CODとNH₄はあまり変わらなかったが、下流に行くにつれてNO₂はだんだんと値が下がり、PHはアルカリ性になったそうです。次回は野火止用水の水を追って上流に向かって歩いて行きたいということです。

所沢市立上山口中学校

木炭チップで河川浄化 川をきれいにした木炭チップで学校ファーム



上山口中学校からは、授業や生徒会の活動で行っている、山口地区フィールドワークや柳瀬川の清掃活動・講演会・水質検査、木炭チップでの河川浄化・土壌改良、学校ファームの作成などについての発表がありました。フィールドワークでは、狭山湖の堤防から所沢市山口地区までの4地点で、生き物やゴミの状況を観察し、清掃活動を行いました。少しでも川に関心を持ち、小さなことでもやってみることが大切だと感じたそうです。また柳瀬川の上流に木炭を細かくしたものを設置し、水を浄化させる作業も開始しました。木炭を入れるかごや浄化用水抜きケース、アミ、浄化用水抜き穴などをみんなで作り、将来、柳瀬川が清流になり、魚がいっぱい泳ぐようになることを楽しみにしています。柳瀬川から回収した木炭チップは土壌改良材として学校ファームに再利用し、サツマイモ、ジャガイモなどを収穫しました。給食の時間に試食を行い、甘くておいしいと好評だったそうです。これからも自分たちの身近にある自然や川を大切に、毎月1回の清掃活動にしっかり取り組み、この活動を後輩にも伝えて行きたいという感想もいただきました。



黒目川流域川づくり懇談会 藤井さんによるコメント・質問

発表後にコメンテータから各発表者へ、以下のようなコメントと質問がなされ、発表者からその回答がありました。

自由学園男子部高等科へのコメント：毎日調査しているというだけでなく、先輩から後輩へずっと受け継がれている。毎日川を見ていることで、変化があった時にすぐに気付いて活動されたことに感心した。オオフサモの調査・駆除は、これからも続けて行くということなので期待している。また他の水生植物の調査も行い、いろんな広がりを持っていることが素晴らしいと思った。

浮間小学校への質問・コメント：まちの中の学校に里山があるということに驚いた。さらにうさ山や池を整備するために先生たちや地域の大人たちの協力があつたことも素晴らしいが、なにより子供たちの活動が素晴らしいと思う。皆さんが中学生になった時、後輩が活動すると思うのだが、皆さん自身は卒業後も時々やってきて活動することがあるかどうか聞きたい。

回答：時々行って、棚田でとれたお米を食べてみたい。今年は蓮華の種をまいたのでその花も見たい。

明法中学・高等学校への質問：大気汚染を与えない取り組み、毎週の水質調査などいろんな活動をされているということだが、空堀川は普段からPHが9.5なのか。

回答：大雨や台風があつたあとは、濃度が少し下がるという現象が毎回みられるが、それ以外はほぼ毎週9.5の値を示している。

明法中学・高等学校へのコメント：野火止用水を東京湾まで行ってしまったという発表があつたが、今度は上流までたどるということで、その時にPHの9.5の値に関するものがあるかどうか是非調べてもらいたい。

所沢市立上山口中学校へのコメント：水質調査をするときに、まず最初に臭いとかゴミとか、そういうことをちゃんと調べている。何も持っていない川に行った時に、いつもと違っていたらそれに気付くことができる。木炭チップを使って水を浄化したり、ゴミを拾ったりして、地道な活動を、自分たちだけではなく地域の方たちと一緒にやっていることが素晴らしいと思う。さらに地域の他の方たちがその活動を見て、自分たちも川に汚い水を流さないようにしようとか、そこからいろいろつながりできてくると思う。そうすれば川がどんどんきれいになると思う。



<p style="text-align: center;">感想カード</p> <p>各校の発表の後に、カードによって参加者の発表に対する感想が示されました。</p>	自由学園 最高学部		
早稲田全登山部表彰記念 ボランティアセンター (WAVO)入会 早稲田全学祭キャンペーンバス 湿地保全プロジェクト		北区中を 考える会	
自由学園 男子部高等科		北区立 浮間小学校	
明法中学・ 高等学校 科学部		所沢市立 上山口中学校	



現地見学会

巡視船に乗って荒川・隅田川・新河岸川を見学



参加各校に荒川下流河川事務所の巡視船 AYASE 号に乗船いただき、荒川～隅田川～新河岸川の現在と歴史を巡るクルージングを30分間体験いただきました。巡視船の体感速度はかなり速く、吹き付ける風が寒く感じられましたが、参加者は船室に入らず船外から直接川の風景を見学していました。川から見上げる橋梁や川の標識などの日頃見慣れない風景や、発表でも触れられた新旧の岩淵水門等、質問を交えながら熱心に見学していました。

荒川知水資料館 amoa 見学

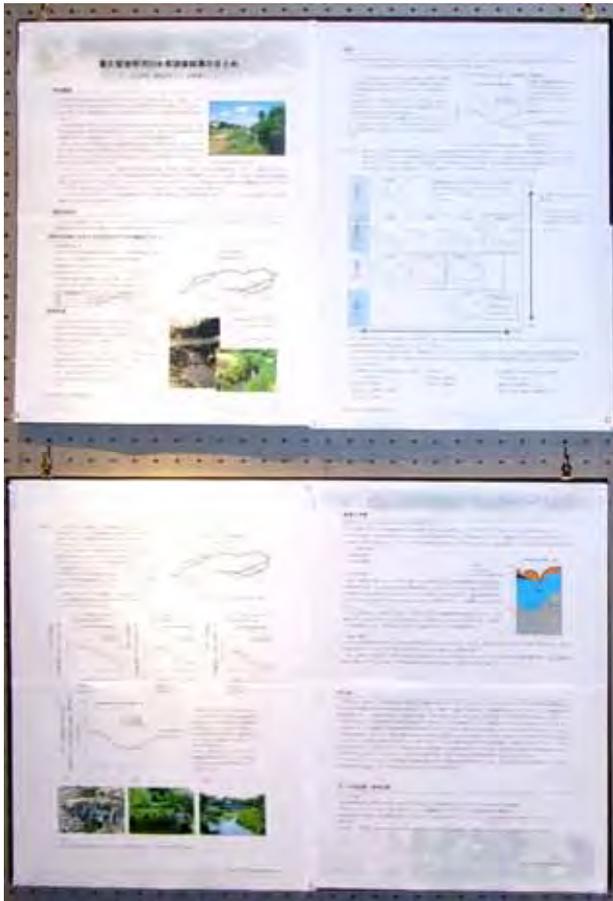
館の方の説明を聞きながら常設展示を見学



交流会の時間に、館の係の方の説明を聞きながら、荒川治水資料館 amoa の館内展示の見学を行いました。1階のイコノス(衛星写真)で荒川流域の位置などを確認した後、2階では、明治43年の大洪水をきっかけに始まり、述べ310万人もの人手と19年間という時間を費やした荒川放水路開削についての資料を見学しました。この工事に大きな貢献をされた青山士(あきら)氏についての説明は、午前中の発表で触れられたこともあり、参加者は熱心に説明を聞いていました。



展示パネル紹介



自由学園最高学部



早稲田大学平山郁夫記念
ボランティアセンター(WAVOC)公認
早稲田大学所沢キャンパス湿地保全プロジェクト部



志木市立宗岡第三小学校



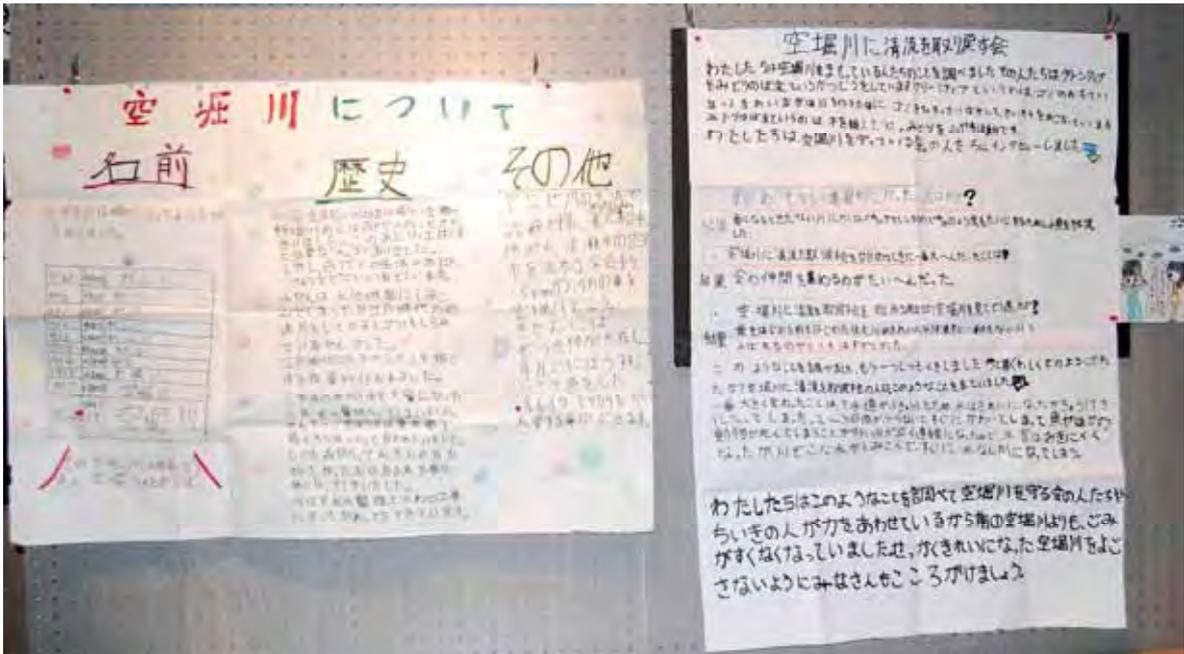
北区立浮間小学校



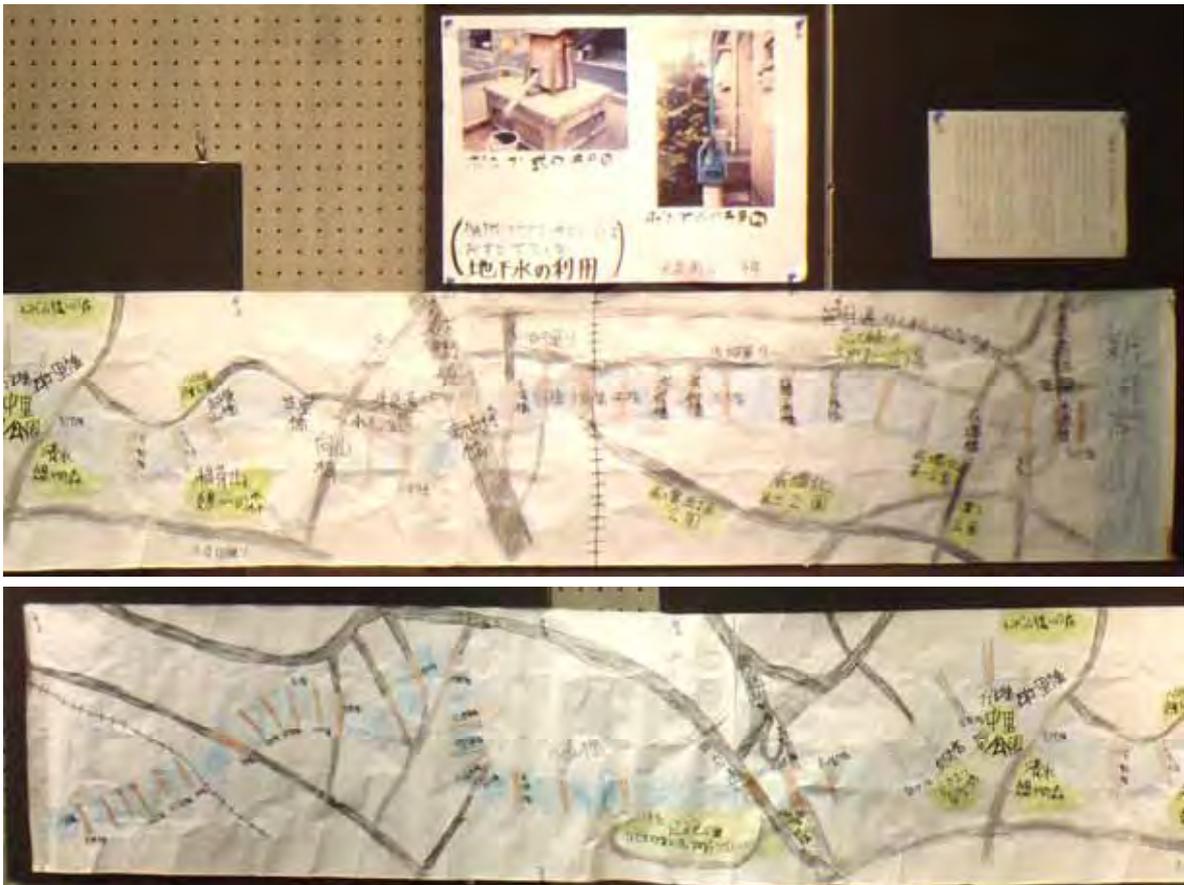
明法中学・高等学校 科学部



所沢市立上山口中学校



東村山市立大岱小学校



練馬区立大泉南小学校



東京都下水道局清瀬水再生センター



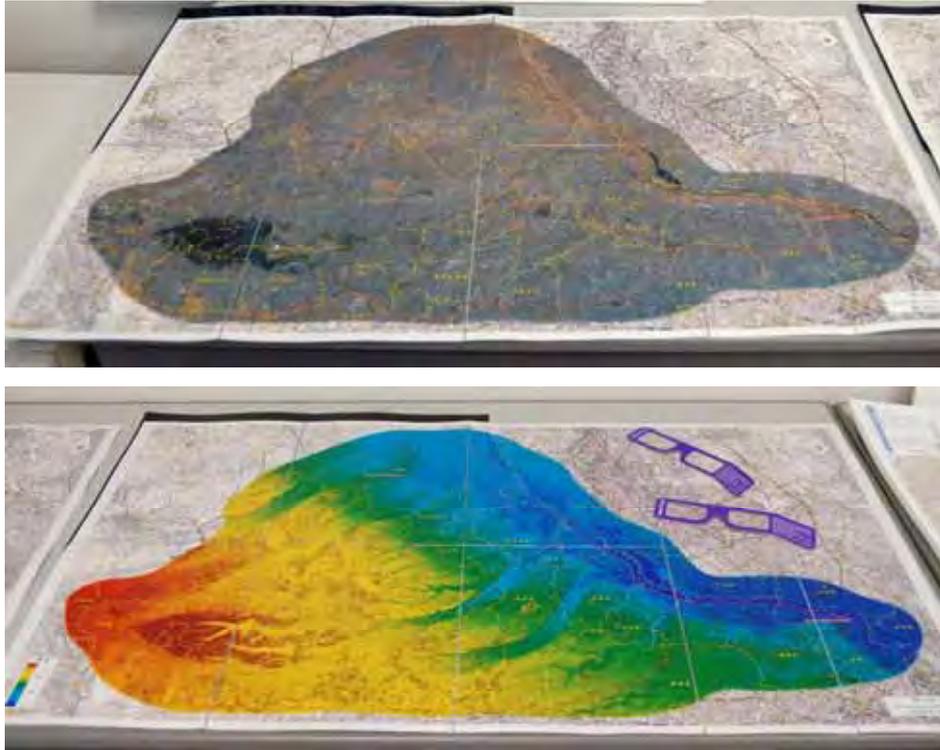
川づくり・清瀬の会



雨水貯留浸透技術協会



自治体パンフレット



荒川下流河川事務所



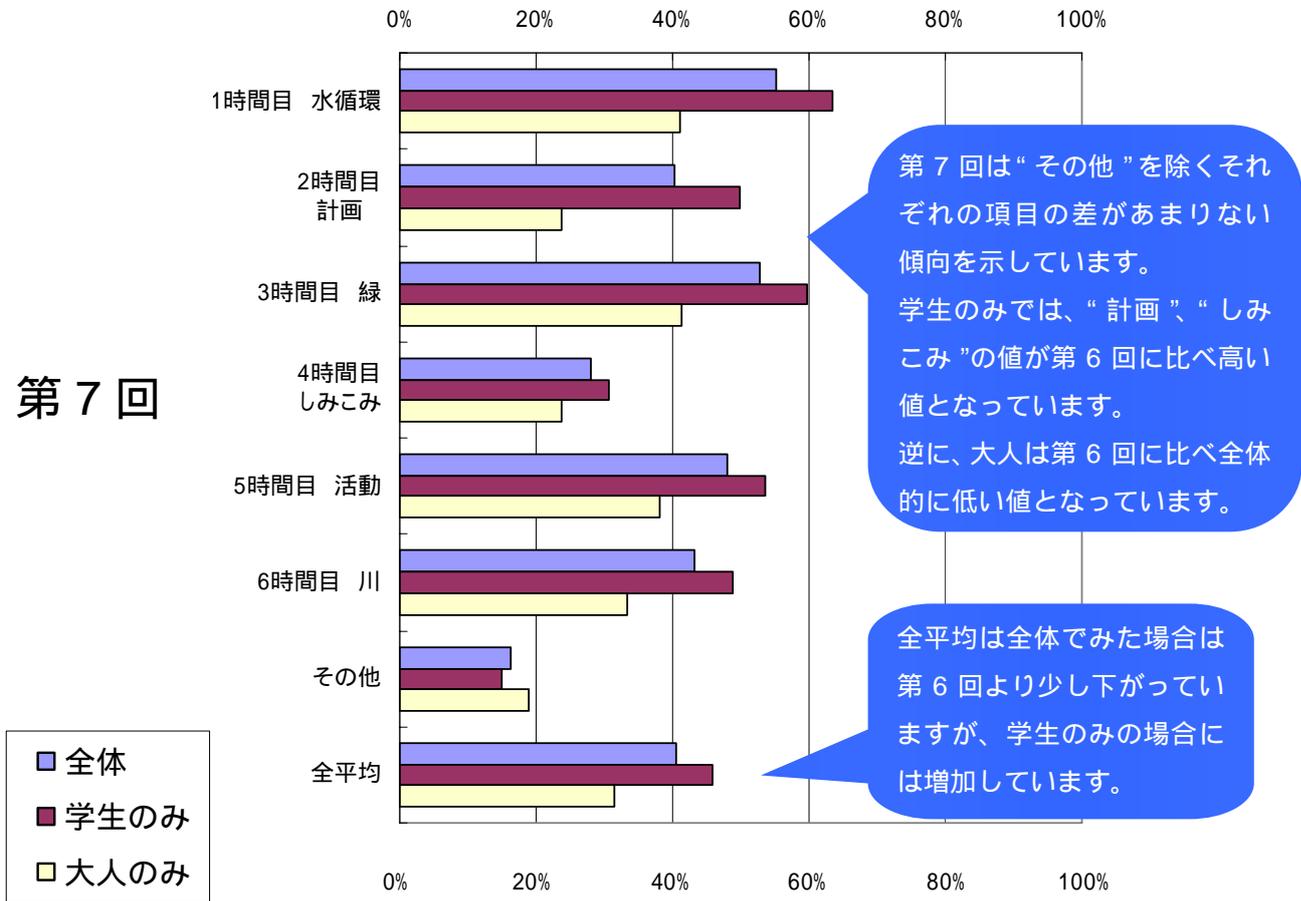
新河岸川流域川づくり連絡会



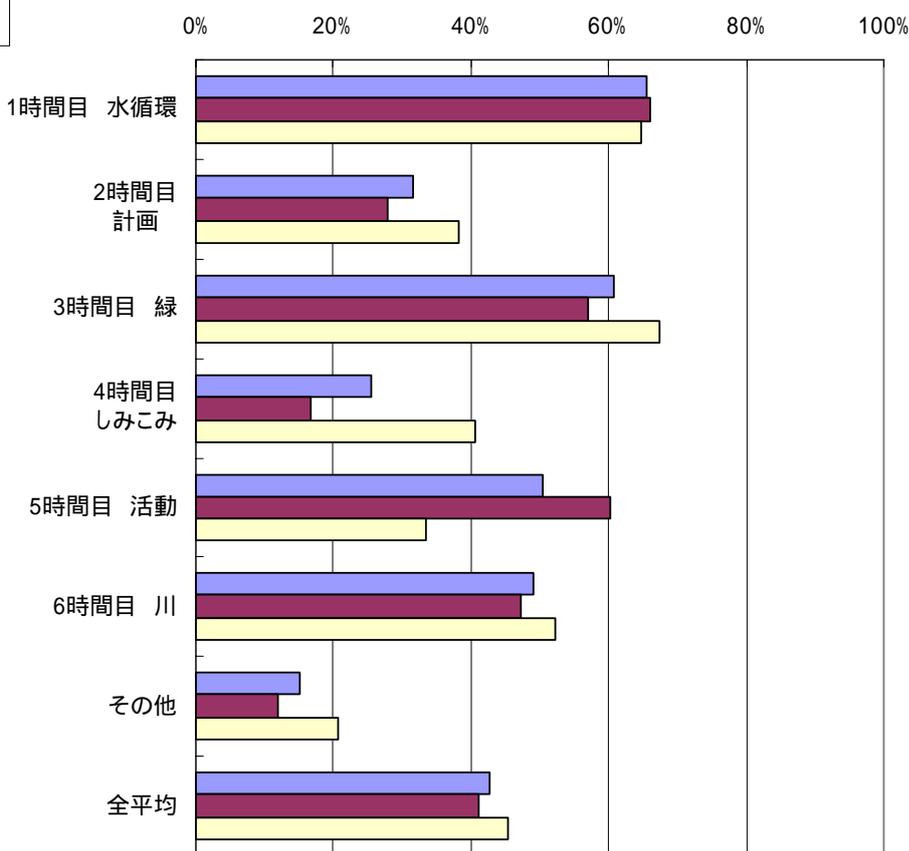
新河岸川流域水循環再生検定試験（学生版）結果

参加者の方々が、「水循環再生についてどのくらい知っているか?」、「水循環に関する活動をどのくらいしているか?」について回答いただいた「新河岸川流域水循環再生検定試験（学生版）」は以下のような結果となりました。

第7回



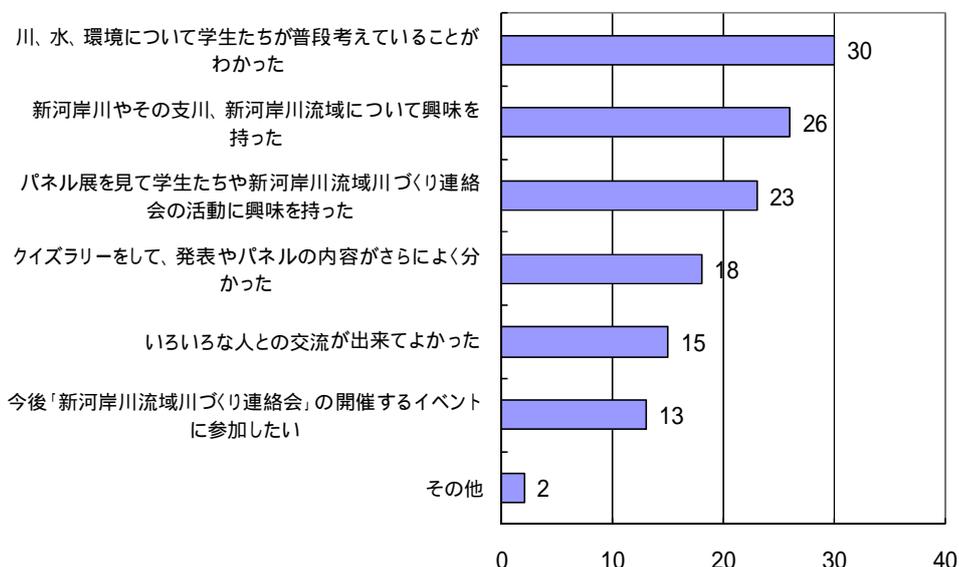
第6回





発表会を終えて（アンケート結果）

発表会についてどのような感想をおもちになりましたか？



参加者の声

色々な発表を見ることができて、とても面白かった。
 発表された学校の生徒さん、学生さんが非常によく勉強・活動をされていることがよくわかり、感心致した。
 清掃、水浄化共に進んで行う学校に敬意。
 子供達が水や緑、全ての環境について勉強していることはよい社会につながると思う。
 「川」について、こんなに真剣に考えている人々がいることに感動した。
 それぞれの各学校の科学部などは、水質などを良くする運動をしていて、環境保全になっていると思った。
 自分の学校でもこれからの取り組みに参考にできるものがあったので、学校に戻り、川への活動の内容を濃くしたい。
 どれも素晴らしい発表だった。内容も、年々充実・発展しているように感じる。この発表会が、子供達の活動を続けていく気持ちを応援していると思った。
 今後もこのような活動に参加していきたいと思う。
 各学校の発表などを聞くと、自分もやってみたい。



みなさん、本当にありがとうございました。発表会を通じて、新しく知ったことや新たなつながりを流域全体へとつなげていきましょう。

